

調査・設計業務等における総合評価方式の見直し

三重県では、調査・設計業務等の総合評価方式において、事務手続きの簡素化、審査および評価の公正性・透明性向上等を目的に見直しを進めてきたところですが、平成27年6月からは、下記のとおりとしますのでお知らせします。

なお、見直しにあたっては、入札参加者、発注者、学識経験者と意見交換および入札参加者に対するアンケート結果を参考としました。

(1) 見直しの方向性

- ① 事務負担の軽減
- ② 企業の技術力を重視、社会貢献度について過度の負担とならないよう配慮
- ③ 審査・評価の公正性・透明性の向上

(2) 主な見直し内容

- ① 事務負担
 - ・技術提案の作成資料を簡素化
 - ・一部の業務でヒアリングを省略
 - ・落札候補者のみ客観評価項目の申告内容について詳細確認を行う事後審査方式を導入
- ② 評価項目・評価基準
 - ・社会貢献度は、引き続きその取組を評価しつつ、取得項目数に応じた評価（加点割合の見直し）により負担を軽減
 - ・客観評価においては、企業の技術力の評価を重視するため、企業の業務実績と業務成績を新たに評価し、技術者の業務実績等の評価を軽減
 - ・技術評価点を見直したことに伴い、価格評価点を見直し（縮小）
- ④ 審査・評価
 - ・地域状況や現場特性などをより反映できる審査・評価体制に移行
 - ・公正性・透明性を高めるため、ヒアリング内容を標準化

(参考) 主な意見交換会

- ・入札参加者（県内、県外コンサルタント）との意見交換
- ・発注者との意見交換（地域機関、本庁事業課）
- ・三重県公共工事等総合評価意見聴取会（学識経験者）での意見聴取・協議

今後の進め方

- ・平成27年6月1日以降の業務から適用
- ・見直した内容について、運用後の検証を実施

設計業務(高度・標準)総合評価方式の評価項目

【現行】

【改正】

大項目	中項目	小項目	標準的な配点	
企業の能力等	地域要件	所在地	本店等所在地	
		所在地	本店等所在地	
	企業要件	社会貢献度	次世代育成支援活動実績	2
			男女共同参画活動実績	2
			障がい者雇用実績	2
	ISO認証取得	ISO等の認証(ISO14001、9000S、M-EMS)	4	
			4	
			80	80
技術者要件	管理技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	40
		手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数(三重県発注)	25
		管理技術者または照査技術者の資格及び分野	資格の保有状況	5
			70	70
技術力要件	技術提案等	技術提案	状況把握	40
		技術提案	特記課題等	40
	ヒアリング	専門技術力		20
		取組姿勢		20
			120	120
技術評価点			200	

価格評価点	100
-------	-----

大項目	中項目	小項目	標準的な配点		備考	
企業の能力等	地域要件	所在地	本店等所在地	(10)	(10)	
		所在地	本店等所在地	(10)	(10)	
	企業要件	社会貢献度	①次世代育成支援活動実績	①～④のうち4項目の実績	8	8
			②男女共同参画活動実績	①～④のうち3項目の実績	7	
			③障がい者雇用実績	①～④のうち2項目の実績	6	
			④ISO等の認証(ISO14001、M-EMS)	①～④のうち1項目の実績	4	
		①～④すべての実績なし		0		
能力等	ISO9000Sの認証			2	(45) 35	
	企業の技術力等	業務実績	業務実績(前年度を含む3か年平均)	5	27	
		業務実績	評価対象業務の実績	20		
			(90)	80	ISO9000Sを企業の技術力へ移行	
					70点未満 0点 70点以上 75点未満 2点 75点以上 80点未満 3点 80点以上 85点未満 4点 85点以上 5点	
技術者要件	管理技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	20	45 45	
		手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数(三重県発注)	20		
		管理技術者または照査技術者の資格及び分野	資格の保有状況	5		
			45	45	0件→20点 1件→15点 2件→10点 3件→5点 4件以上→0点	
技術力要件	技術提案等	技術提案	状況把握		70 70 70	
		技術提案	特記課題	50		
	ヒアリング	専門技術力		20		
		取組姿勢				
			(160)	150	(配点:50, 45, 40, 35, 0) 技術提案は、「特記課題」、「業務フォロー」、「照査計画」から1つ選択する	
					(配点:20, 15, 10, 5, 0) ヒアリング内容の標準化	
技術評価点			(160)	150		

価格評価点	70
-------	----

凡例

黒字表記箇所	現行制度と同じ
赤字表記箇所	改正箇所
 	新設項目
 	削除項目

設計業務(難度 ヒアリング有: 予定価格1千万円以上の場合)総合評価方式の評価項目

【現行】

【改正】

大項目	中項目	小項目	標準的な配点		
企業の能力等	地域要件	所在地	本店等所在地	10	10
	企業要件	社会貢献度	次世代育成支援活動実績	2	6
			男女共同参画活動実績	2	
			障がい者雇用実績	2	
	ISO認証取得	ISO等の認証(ISO14001、9000S、M-EMS)	4	4	140
技術者要件	管理技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	40	50
		手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数	10	
	担当技術者①	技術者資格及び分野	資格の保有状況	5	35
		業務執行技術力	評価対象業務の実績	20	
		手持ち業務件数	担当技術者①の手持ち件数	10	
	担当技術者②	技術者資格及び分野	資格の保有状況	5	35
		業務執行技術力	評価対象業務の実績	20	
		手持ち業務件数	担当技術者②の手持ち件数	10	
技術力要件	技術力提案等	技術提案	的確性等	60	160
			実現性等	40	
	ヒアリング	専門技術力	40	160	
		取組姿勢	20		
技術評価点			300		

価格評価点	100
-------	-----

大項目	中項目	小項目	標準的な配点		備考	
企業の能力等	地域要件	所在地	本店の所在地	(10)	(10)	
	社会貢献度	①次世代育成支援活動実績	①～④のうち4項目の実績	8	8	現行のISO(14001,9000S)のうち、ISO9000Sは、「企業の技術力等」へ移行。 現行の次世代育成、男女共同参画、障がい者雇用の実績は、各項目それぞれ2点としていたが、見直し案においては、①～④の項目の取得実績数に応じて評価(加点割合見直し)
		②男女共同参画活動実績	①～④のうち3項目の実績	7		
		③障がい者雇用実績	①～④のうち2項目の実績	6		
		④ISO等の認証(ISO14001、M-EMS)	①～④のうち1項目の実績	4		
企業要件	ISO9000Sの認証	①～④すべての実績なし	0	(45)	35	
企業要件	ISO9000Sの認証	業務成績	業務成績(前年度を含む3か年平均)	5	27	(140)
		業務実績	評価対象業務の実績	20	130	ISO9000Sを企業の技術力へ移行 70点未満 0点 70点以上 75点未満 2点 75点以上 80点未満 3点 80点以上 85点未満 4点 85点以上 5点
技術者要件	管理技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	25	35	0件→10点 1～3件→7点 4～9件→4点 10件以上→0点
		手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数	10		
	担当技術者①	技術者資格及び分野	資格の保有状況	5	30	
		業務執行技術力	評価対象業務の実績	15		
		手持ち業務件数	担当技術者①の手持ち件数	10		0件→10点 1～3件→7点 4～9件→4点 10件以上→0点
	は照査技術者②又	技術者資格及び分野	資格の保有状況	(0) 5	30	照査技術者の評価をする場合は、「評価項目は無し」とし、評価対象業務の実績へ5点上積みする
		業務執行技術力	評価対象業務の実績	(20) 15		
		手持ち業務件数	担当技術者②又は照査技術者の手持ち件数	10		0件→10点 1～3件→7点 4～9件→4点 10件以上→0点
技術力要件	技術力提案等	技術提案	的確性等	50	100	100
			実現性等	30		
	ヒアリング(予定価格1千万円以上)	専門技術力	20	100		
		取組姿勢				
技術評価点			(240)	230	(配点1:50, 45, 40, 35, 0) (配点2:30, 25, 20, 15, 0) 技術提案は、「的確性」、「実現性」、「独創性」から2つ選択する。 (配点:20, 15, 10, 5, 0) ヒアリング内容の標準化	

価格評価点	70
-------	----

凡 例

黒字表記箇所	現行制度と同じ
赤字表記箇所	改正箇所
黄色背景	新設項目
灰色背景	削除項目

設計業務(難度 ヒアリング無: 予定価格1千万円未満の場合)総合評価方式の評価項目

【現行】

【改正】

【現行】				【改正】				備考						
大項目	中項目	小項目	標準的な配点	大項目	中項目	小項目	標準的な配点							
企業の能力等	地域要件	所在地	本店所在地	10	10									
		企業要件	社会貢献度	次世代育成支援活動実績	2	6	企業 の 能 力 等	社会 貢 献 度	①次世代育成支援活動実績	①~④のうち4項目の実績	8			
	男女共同参画活動実績			2	②男女共同参画活動実績				①~④のうち3項目の実績	7				
	障がい者雇用実績			2	③障がい者雇用実績				①~④のうち2項目の実績	6				
	ISO認証取得		ISO等の認証(ISO14001、9000S、M-EMS)	4	④ISO等の認証(ISO14001、M-EMS)				①~④のうち1項目の実績	4				
					4		企業 の 能 力 等		ISO9000Sの認証	2				
					4	140		企業 の 能 力 等	業務成績	業務成績 (前年度を含む3か年平均)	5	27	(45) 35	<p>現行のISO(14001,9000S)のうち、ISO9000Sは、「企業の技術力等」へ移行。</p> <p>現行の次世代育成、男女共同参画、障がい者雇用の実績は、各項目それぞれ2点としていたが、見直し案においては、①~④の項目の取得実績数に応じて評価(加点割合見直し)</p> <p>ISO9000Sを企業の技術力へ移行</p> <p>70点未満 0点 70点以上 75点未満 2点 75点以上 80点未満 3点 80点以上 85点未満 4点 85点以上 5点</p>
					4	140		企業 の 能 力 等	業務実績	評価対象業務の実績	20	130		
	技術者要件	管理技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	40	50	管理 技 術 者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	25	35	95	0件→10点 1~3件→7点 4~9件→4点 10件以上→0点	
			手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数	10			手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数	10				
担当技術者①		技術者資格及び分野	資格の保有状況	5	35	担 当 技 術 者 ①	技術者資格及び分野	資格の保有状況	5	30	0件→10点 1~3件→7点 4~9件→4点 10件以上→0点			
		業務執行技術力	評価対象業務の実績	20			業務執行技術力	評価対象業務の実績	15					
		手持ち業務件数	担当技術者の手持ち件数	10			手持ち業務件数	担当技術者の手持ち件数	10					
担当技術者②		技術者資格及び分野	資格の保有状況	5	35	照 査 担 当 技 術 者 ② 又 は	技術者資格及び分野	資格の保有状況	(0) 5	30	照査技術者の評価をする場合は、「資格の保有状況はなし」とし、評価対象業務の実績へ5点上積みする			
	業務執行技術力	評価対象業務の実績	20	業務執行技術力			評価対象業務の実績	(20) 15						
	手持ち業務件数	担当技術者の手持ち件数	10	手持ち業務件数			担当技術者の手持ち件数	10						
技術力要件	技術提案等	技術提案	的確性等	60	160	技 術 力 要 件	技術提案	的確性等	50	80	80	80	<p>(配点1:50, 45, 40, 35, 0) (配点2:30, 25, 20, 15, 0)</p> <p>技術提案は、「的確性」、「実現性」、「独創性」から2つ選択する。</p>	
			実現性等	40				実現性等	30					
	ヒアリング	専門技術力	40	ヒアリング			専門技術力							
		取組姿勢	20	ヒアリング			取組姿勢							
技術評価点			300	技術評価点			(220) 210							
価格評価点			100	価格評価点			70							

凡 例

- 黒字表記箇所 現行制度と同じ
- 赤字表記箇所 改正箇所
- 黄色背景 新設項目
- 灰色背景 削除項目

測量業務 総合評価方式の評価項目

【現行】

【改正】

大項目	中項目	小項目	標準的な配点			
企業の能力等	地域要件	所在地	本店所在地	10	10	
	企業要件	社会貢献度	次世代育成支援活動実績	4	12	
			男女共同参画活動実績	4		
			障がい者雇用実績	4		
		ISO認証取得	ISO等の認証 (ISO14001、9000S、M-EMS)	8	8	
技術者要件	配置予定技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	40	70	
		手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数 (三重県発注)	30		
技術力要件	技術提案	業務計画	業務実施方針	15	30	30
			業務実施体制	15		
技術評価点			130			

価格評価点	100
-------	-----

大項目	中項目	小項目	標準的な配点				備考	
企業の能力等	地域要件	所在地	本店所在地	(10)	(10)			
	企業要件	社会貢献度	①次世代育成支援活動実績	①～④のうち4項目の実績	8	8	(45) 35	現行のISO(14001,9000S)のうち、ISO9000SIは、「企業の技術力等」へ移行。 現行の次世代育成、男女共同参画、障がい者雇用の実績は、各項目それぞれ4点としていたが、見直し案においては、①～④の項目の取得実績数に応じて評価(加点割合見直し)
			②男女共同参画活動実績	①～④のうち3項目の実績	7			
			③障がい者雇用実績	①～④のうち2項目の実績	6			
			④ISO等の認証 (ISO14001、M-EMS)	①～④のうち1項目の実績	4			
		①～④すべての実績なし	0					
		ISO9000Sの認証		2		(100) 90	ISO9000Sを企業の技術力へ移行	
	企業の技術力等	業務成績	業務成績 (前年度を含む3か年平均)	5	27		70点未満 0点 70点以上 75点未満 2点 75点以上 80点未満 3点 80点以上 85点未満 4点 85点以上 5点	
		業務実績	評価対象業務の実績	20				
技術者要件	配置予定技術者	業務執行技術力	評価対象業務の実績	35	55	55	0件→0点 1～2件→20点 3件→25点 4件→30点 5件以上→35点	
		手持ち業務件数	管理技術者の手持ち件数 (三重県発注)	20			0件→20点 1件→15点 2件→10点 3件→5点 4件以上→0点	
技術力要件	技術提案	業務実施方針		30	30	30	30	(配点:30, 25, 20, 15, 0)
		業務実施体制						
技術評価点			(130) 120					

価格評価点	70
-------	----

凡 例

黒字表記箇	現行制度と同
赤字表記箇	改正箇所
■	新設項目
■	削除項目